

研究報告) 美容学生のバラ園活用による地域活性についての検討 -世代別バラの嗜好傾向およびバラ園活用方法-

Study by beauty students on the use of the rose garden to revitalize the community
-Preference for Roses by Generation and the Use of Rose Gardens

森田菜々 丸山遥香 田中 翔 石井水称美

指導教員 富田知子 大野淑子 大西典子 及川麻衣子

抄 録

山野美容芸術短期大学には、地域の方に支えられているローズ・ガーデンがある。バラの花の種類は多様で、その豪華な美しさは、紀元前6世紀の詩にも「愛らしいバラ、花の女王」と歌われ、観賞用として栽培される「花卉類」の中では観賞の対象にされるだけではなく、古くから美術、建築、文学、音楽、宗教、生活用品などの分野に広く取り上げられている。¹⁾ そのように特別感のあるバラ園を地域活性および他世代間の交流の場として活用できないかと考えた。今回はその方法を検討するため、美容学生及び他大学の学生、そして50代以上の地域住民の方々にアンケートを行い、その可能性を検討した。

キーワード：バラ ローズ・ガーデン アンケート調査 地域交流 地域活性

I. はじめに

本報告は、一部2023年12月に行われた大学コンソーシアム八王子学生発表会で用いたデータに加え、新たなデータを含め、改めて報告する。

山野美容芸術短期大学には、地域の方に支えられているローズ・ガーデンがある。地域の方の多くが50歳以上のシニアである。^{図1)} 2019年から地域の方が講師となり、1年間5回の勉強会を重ね、参加者の方にはローズパートナーとして、ローズ・ガーデンの造成からご協力いただいた。2020年2月に完成したローズ・ガーデンは、整備を続けていただきながら、現在に至っている。

一昨年には、多摩マイクロツーリズムコンテストで、地域のローズマップを作成するなど、ローズ・ガーデンを活用した企画が認められ、2023年にはご賛同いただいた企業と協働の企画が進んでいる。

特にローズマップの作製は、地域のシニアを中心にバラ園を観賞することを目的に、コロナ禍で活動の低下したシニアの外出促進の一助とすることも目的にしていた。しかし、バラの開花時期が限られていることから、観賞目的では継続的な活動につなげることができなかった。

ところが、原点に戻るとローズパートナーとなっている50歳代以上のシニアの方々は、ローズ・ガーデンの園芸活動を継続されており、その上、そこで形成された人たちとの交流や活動を楽しんでいた。そして何よりおしゃれも楽しんでおり、地域の活性化につながっていた。

著者らは、短大にあるこの小さなバラ園を通して、単に開花時期だけに限らず楽しめる園芸活動も含め、地域の人や学生との交流が促進できる方法を検討していきたいと考えた。そこで、まずシニアだけでなく学生にとっても、そもそもバラに関心があるのか、そしてバラ園に興味はあるのか、また、交流するための集客につなげるには何が必要なのかを知りたいと考えた。そこで、最終的に本学のみならず、地域のバラ園を活用した取り組みを地域活性化につなげるために、バラの嗜好傾向やバラ園活用方法を考えるためのアンケートを実施した。そこから得られた結果を基に考察した。

II. 方法

調査機関：2023年9月上旬～10月下旬

調査方法：

- 1) 美容学生(山野美容芸術短期大学生及び山野美容専門学校生)32名にバラ園の活用および提供したいイベントについて、LINEグループの投票システムを使用し、アンケートを行った。この回答は、他大学およびシニアに向けてのアンケートの

Nana Morita, Haruka Maruyama, Tsubasa Tanaka, Minami Ishii
Tomoko Tomita, Yoshiko Ohno, Noriko Onishi, Maiko Oikawa

山野美容芸術短期大学

連絡先:〒192-0396 東京都八王子市鎌水 530

設問の参考とした。項目は以下のとおりである。

「美容学生×バラ園活用」選択肢：

- ①ローズオイルでハンドマッサージ
- ②バラの足湯
- ③ボディペイント：モチーフにバラを使用
- ④バラを連想させるメイク
- ⑤バラを連想させるヘアメイク作品制作・作品撮り
- ⑥バラのタトゥーシール制作
- ⑦バラ茶の提供

2) 他大学の学生 (37名) : Google forms を使用しオンラインにより調査依頼

3) 本学教員主催の講座に参加したシニア (24名) : 質問紙への記述による調査

2),3)に対する設問内容：

- ① 属性 (年代・性別)、
- ② バラの嗜好傾向に関する設問：

バラの魅力 (花の美しさ、花の香、花の種類の多さ、バラの高級感・特別感、花言葉、アロマ効果、美容効果、魅力を感じない、よくわからない、バラの本数によって意味が違うこと、その他)

好きなバラの色 (赤、紫、ピンク、白、黄色、オレンジ、その他)

バラをプレゼントされると嬉しいか (とても嬉しい、嬉しい、どちらともいえない、あまり嬉しくない)

③ バラ園の認知度に関する設問：
バラ園を知っているか (知っている、知らない・よくわからない)

バラ園を訪れたことがあるか (ある、ない)
あると回答の場合そのきっかけ

バラ園に関心があるか (とてもある、ある、どちらともいえない、あまり関心はない)

④ バラ園活用方法：
来訪経験がある場合そのきっかけ・バラ園来訪のきっかけとなると思うイベント (バラの足湯、バラ茶の提供、バラ園で映える写真を撮ってもらう、バラ園でコスプレイヤーと撮影会、バラに関する美容講座、)
バラ園を活用するアイデアの自由回答

倫理的配慮：回答内容や個人が特定されないように配慮した。

III. 結果

1) 美容学生によるバラ園の活用及びイベント提供のアンケート結果

- 1位：バラの足湯 (35%)
- 2位：バラを連想させるヘアメイク作品制作・作品撮り (17%)
- 3位：バラのタトゥーシール制作 (17%)
- 4位：ローズオイルでハンドマッサージ (15%)
- 5位：バラ茶の提供 (10%)
- 6位：バラを連想させるメイク (4%)
- 7位：ボディペイント：モチーフにバラを使用 (2%)

という結果になった。

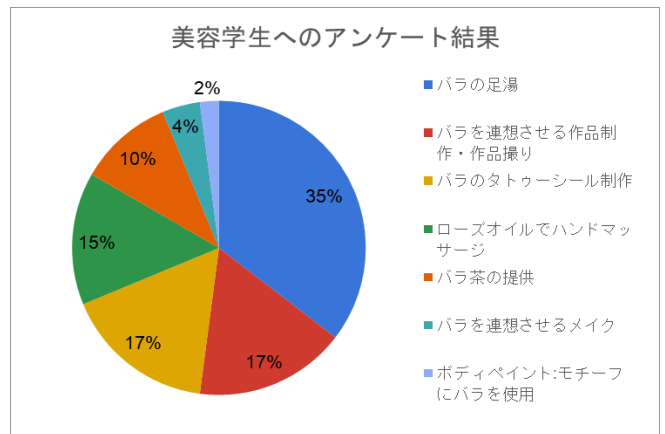


図 1 美容学生バラ園の活用及びイベント提供についてのアンケート結果

2) 他大学の学生によるアンケート結果およびシニアによるアンケート結果
特徴的なデータをここに提示する。

年齢構成と男女比

- ・シニア：
 - 50～60代 37%
 - 70代以上 63%
 - (男性 8名 女性 16名)
- ・学生：
 - 10代 32%
 - 20代 68%
 - (男性 15名 女性 22名)

バラ園の知名度

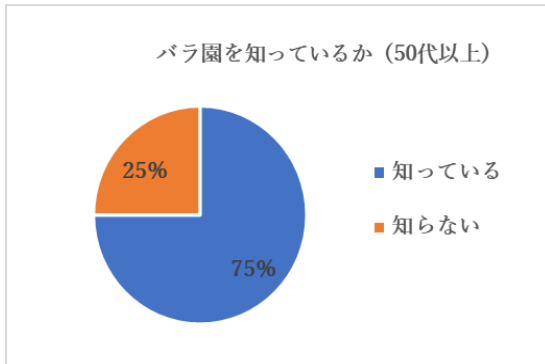


図2.バラ園を知っているか (シニア)

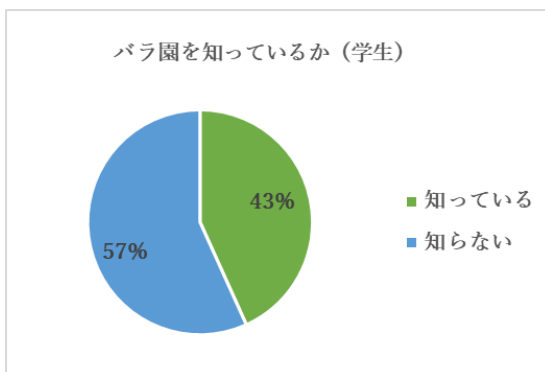


図3.バラ園を知っているか (学生)

- ・バラ園を知っている。
シニア 75% 学生 43%
- ・バラ園を知らない (よくわからない)
シニア 25% 学生 57%

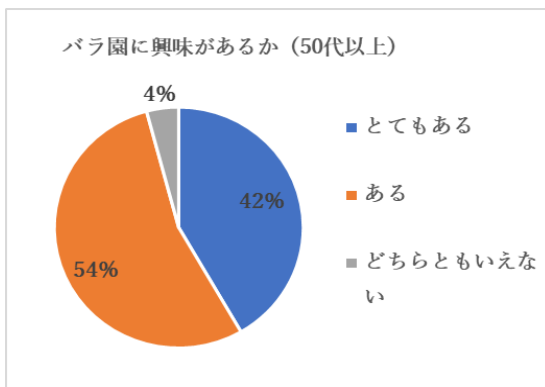


図4. バラ園に興味があるか (シニア)

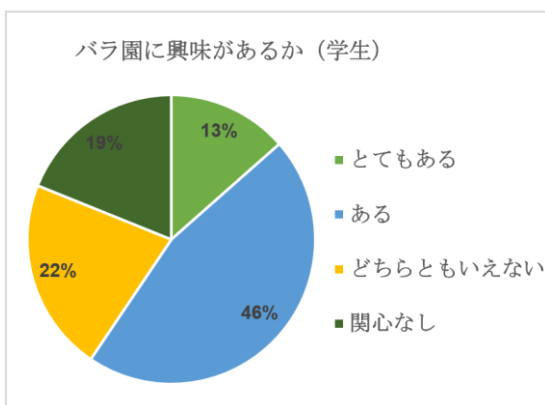


図5. バラ園に興味があるか (学生)

- ・バラ園に関心がとてもある・ある
シニア 96% 学生 59%
- ・どちらとも言えない
シニア 4% 学生 22%

来園のきっかけとなると思うイベント

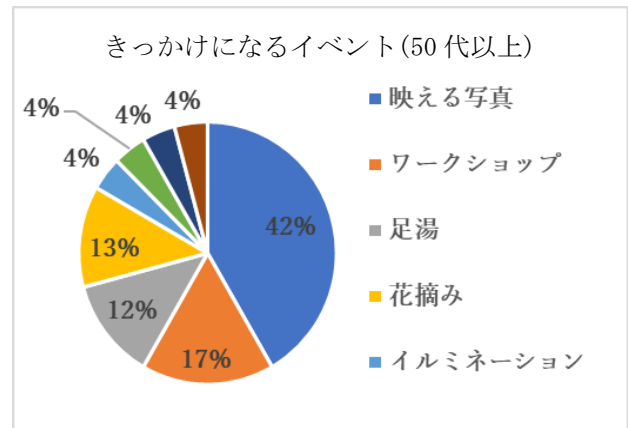


図6. 来園のきっかけになるイベント (シニア)

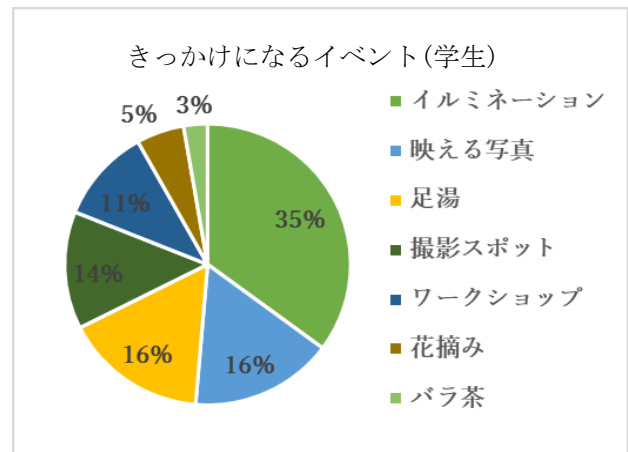


図7. 来園のきっかけになるイベント (学生)

シニア

- 1位：映える写真 42%
- 2位：ワークショップ 17%
- 3位：足湯 12%
- 4位：花摘み 13%
- 5位：イルミネーション・バラ茶・講座・コスプレイヤーとの撮影 4%

学生

- 1位：イルミネーション 35%
- 2位：映える写真・足湯 各16%
- 4位：撮影スポット 14%
- 5位：ワークショップ 11%
- 6位：花摘み 5%
- 7位：バラ茶 3%

自由記述

シニアの自由記述

- バラ園の存在をPRして欲しい、また見た目の美しさを伝え、このように見て美しい、撮って美しい、しゃべって楽しいことを添えるとよい
- 撮影スポット
- バラについての講座
- 犬も一緒に入れるオープンカフェ
- バラの香りを使った香水作り
- バラの里親制度(挿し木にしたものを配り家で育ててもらってバラを庭に広げていく、鉢植えを持ってきて年に2回バラまつりをする、持ってこられない人は写真、写メで参加する)
- バラの世界地図作り、原産地ごとに育て世界を巡る

学生の自由記述

- バラの無料配布
- インスタグラムなどで情報を広げる
- 花束を自分で作れる
- バラ園でプロポーズプラン:バラを恋人に生け花として渡し、後日ドライフラワーやプリザーブド加工をして一生ものにするなど
- バラ園の中にカフェを作って映える写真を撮れる。
- イルミネーションが見てみたいです
- バラの試食、バラを液体窒素に付けてバラバラにする実験体験

以上とても参考となる提案をいただきました。

IV. 考察と提案

美容学生の結果から、提供するものとしては、バラの視覚的効果および美容効果が期待できるものが示された。また、バラ園活用方法として、美容技術を使い自身の作品に取り込むことが可能であることが示唆された。

美容学生の提案と共通するものとして、「バラの足湯」はシニア及び他大学の学生からも一定の支持が得られた。足湯に関しては、バラの季節には自身で摘んだバラの生花を、バラ以外の季節には、ドライフラワーにした花びらを併せて使用することで、美容効果と視覚的効果に加え、イベント性が強まると考えられる。

シニアの自由記述では、「バラの挿し木を介した交流会」が提案され、本稿で最初に示した継続的な地域活性の活動支援にもつながると考えられる。

課題としては、イベントの周知方法などがある。これに関しては、SNS等を利用して、学生世代にも広げていきたい。

今回の結果を踏まえ、今後も本学及び八王子市にある市民のバラ園が、地域活性化につながる活動の実施の懸け橋となるよう、検討を行っていく必要がある。

謝辞

今回の調査にあたり、多摩大学 長島剛先生、梅澤佳子先生、実践女子短期大学部 三田薫先生、アンケートにご協力いただいたそれぞれのゼミの学生の皆様、シニアの皆様、山野美容専門学校の生徒の皆様にご心より感謝申し上げます。

参考文献

- 1) ROSE バラの歴史と文化史 一般社団法人 日本園芸協会ローズ・ガーデン講座テキスト1 2008年4月
- 2) 福井博一 2013 アンケート調査およびSD法によるばらの花型および花色のイメージ分類 園芸学研究 12巻3号 p.311-317
- 3) 日本リサーチセンター 2019年11月調査公開 あなたの好きな花は? <https://www.nrc.co.jp/report/191119.html> (2023年9月閲覧)
- 4) 芦田 凌 2021 都心部の大規模都市公園における滞留者の空間の使い分けに関する研究日本都市計画学関西支部研究発表会講演概要集 19巻 p.93-96
- 5) 桜井和俊 2010 香りの分析と香りの効果効能について 日本食生活学会誌 vol.21 No.3 p.179-184

Study by beauty students on the use of the rose garden to revitalize the community

-Preference for Roses by Generation and the Use of Rose Gardens

提出日：2023/12/20